

長畝ふるさと通信

【2018年4月号】

■ 平成30年産 種まき ちょっとしたトラブルも・・・



4月4日、平成30年産米のスタートを切る「種まき」をしました。近年、5月初旬は気温が低く、田植え後の苗の活着が遅くなる傾向があったので、例年より遅めに田植に取り掛かることにしました。左写真は4月9日播種したのですが、低温続きで出芽が遅れたので予定よりも1日長く催芽庫に入れておいたら、翌

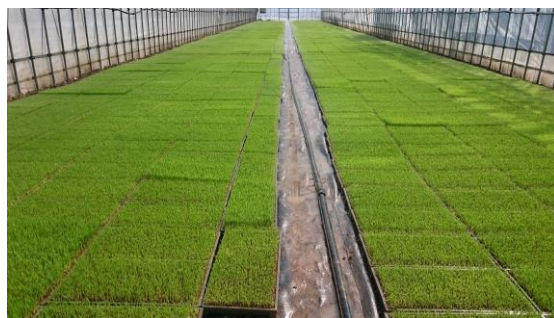
日開けてビックリ、逆に芽が伸びすぎて重ねて積んである苗箱をひっくり返す勢いで芽が伸びていました。幸い、この状態で何とか持ちこたえていたのでロスはありませんでしたが油断大敵です。苗箱1箱は5kgくらいあり、結構重いのですが芽の力おそるべし！

＜密苗でコストカットを狙います＞

密苗とは・・・通常、育苗箱当たりの種もみ播種量は100～150gですが、密苗は250～300gと高密度で播種することによって田植に使う苗箱数が3分の1程度に削減できるという画期的な技術です。ただし、本来の密苗を田植するためにはそれ専用の田植機の植え付けパーツが必要となるのですが、その経費がもったいないので今年は従来の田植機で対応できる範囲で実験してみます。先進取り組み事例では「大幅なコストカットが実現した」「植え付け後の苗姿が貧弱で初期生育が悪い」など賛否両論あり、慎重に見極めたいと考えています。



(育苗ハウスへの苗出しの様子)



出芽した苗箱は育苗ハウスに並べ、左上写真のように「ミラシート」という緑化保湿シートで覆い、さらに3日経つと右上写真のように白かった芽が緑色に変わります。このミラシートも今年、約10年ぶりに更新しました。経費は約40万円。通常5～6年で更新するべき資材だそうですが、「貧乏カネなし」でできるだけ長く使おうです。経費節減は健全経営の第一歩ですから。

■ 今年のお祭りは「土砂降り」の中・・・



4月15日、長畝氣比神社のお祭りは前夜から土砂降り・・・早朝4時半に集合し支度にとりかかっている最中も雨は一向に止む気配がありません。鬼の面をつける青年たちも今一つ元気がないような・・・景気づけにお神酒を煽り、いざ出陣。一度濡れてしまえば不思議なものでお酒の力も借りながらいつものよう

に威勢よく掛け声も出て、青年会の若者たちは元気よく門付けに向かってお宮さんを出て行きました。



集落で門付けを終え、青年会が再びお宮さんへ帰ってきたのは真夜中23時。雨もお昼頃には止みましたが、この日鬼は何足足袋とわらじを取り換えたことか・・・気力・体力ともに限界を迎えていましたが、これからが本番。最後の奉納舞が約2時間ばかり・・・すべてが終了したのは25時を過ぎておりました。暗闇の中で気力を振り絞り舞う鬼の姿は神々しくもあり、東京から帰省してこの瞬間を見ていたお姉さんたちは「美しい・・・」と思わず感動のため息をもらしていた次第です。

氏子総代のボクは後片付けを終え家に帰ったのは26時、翌朝6時からのぼりを降し、無事お祭りは終了。腰は痛いわ、眠たいわ、酒臭いわで大変でしたが、すでに来年が待ち遠しいわけです。



春のお祭りが終わると、5月の田植に向け、田んぼの準備が加速度的に進みます。苗も順調に生育しています。野生下のトキも順調にヒナが孵っているというニュースが入っています。

トキと共に今年も美味しいお米を育ててまいります。